

# 研究成果の刊行に関する一覧表

## 書籍

No	著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ	一覧表のページ
1	荒木信夫	群発頭痛: 病態生理	坂井文彦	最新医学別冊 新しい診断と治療のABC 21 頭痛	最新医学社	大阪	2004	166-172	23
2	荒木信夫	日本神経学会治療ガイドライン: 慢性頭痛治療ガイドライン(2002)	山口徹	今日の治療指針 2005年版	医学書院	東京	2005	1577-1582	31
3	池田 憲	頭痛医療システム: 脳ドックの役割	坂井文彦	最新医学別冊 新しい診断と治療のABC 21 頭痛	最新医学社	大阪	2004	57-64	37
4	久保慶高	二次性頭痛の鑑別診断	鈴木孝弘	カレントセラピー	ライフメディコム	東京	2004	61-64	
5	久保慶高, 小川 彰 他	ネッククリッピングが不可能な内頸動脈海綿静脈洞部の巨大脈瘤に対する外科治療	永田 泉	新世紀のバイパス術	真興社	東京	2004	122-125	
6	清水俊彦	薬物乱用頭痛: 予防対策と治療	坂井文彦	最新医学別冊 新しい診断と治療のABC 21 頭痛	最新医学社	大阪	2004	182-192	45
7	鈴木則宏	セロトニンと頭痛	M. Satoh (ed)	Serotonin update. New Frontiers of Neurotransmitter Research. 7.	Excerpta Medica, /Elsevier Japan	Tokyo	2004	1-20	
8	鈴木則宏	片頭痛の知識を深める	間中信也	トリプタンの使い方～片頭痛治療薬のさじ加減～	フジメディカル出版	東京	2004	41	
9	鈴木則宏	頭痛	山口徹, 北原光夫	2004 今日の治療指針一私にはこう治療している一	医学書院	東京	2004	652-654	
10	根来 清, 多田由紀子	頭痛医療システム: 頭痛外来	坂井文彦	最新医学別冊 新しい診断と治療のABC 21 頭痛	最新医学社	東京	2004	26-32	57



No	著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ	一覧表のページ
11	橋本洋一郎, 井重博, 内野誠	頭痛医療システム: プライマリーケアと病診連携	坂井文彦	最新医学別冊 新しい診断と治療のABC 21 頭痛	最新医学社	東京	2004	40-50	65
12	濱田潤一	片頭痛: セロトニンの役割	坂井文彦	最新医学別冊 新しい診断と治療のABC 21 頭痛	最新医学社	大阪	2004	119-125	77
13	平田幸一	トリプタン系薬剤の投与禁忌、不適切使用例、他薬との相互作用	間中信也, 喜多村孝幸	トリプタンの使い方	フジメデイカル出版	大阪	2004	130-133	85
14	平田幸一	妊娠中・授乳中の投与は可能か?	間中信也, 喜多村孝幸	トリプタンの使い方	フジメデイカル出版	大阪	2004	134-136	89
15	平田幸一	高齢者への投与	間中信也, 喜多村孝幸	トリプタンの使い方	フジメデイカル出版	大阪	2004	137	92
16	平田幸一	小児における投与は可能か?	間中信也, 喜多村孝幸	トリプタンの使い方	フジメデイカル出版	大阪	2004	138-139	93
17	平田幸一	緊張型頭痛: 分類と診断基準と病態	坂井文彦	最新医学別冊 新しい診断と治療のABC 21 頭痛	最新医学社	大阪	2004	143-152	95
18	平田幸一	診断基準: 慢性連日性頭痛	柳沢信夫, 篠原幸人, 岩田誠, 清水輝夫, 寺本明	Annual Review 神経	中外医学社	東京	2004	68-74	105
19	間中信也	頭痛の概念・定義: 新国際頭痛分類(ICHD-II) 一 一次性頭痛、二次性頭痛一	坂井文彦	最新医学別冊 新しい診断と治療のABC 21 頭痛	最新医学社	東京	2004	9-15	111



研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

No	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年	一覧表の ページ
1	荒木信夫	頭痛の原因－発症のメカニズム－	治療	86(4)	1449-1454	2004	121
2	荒木信夫	治療の最前線(4):頭痛,群発頭痛および三叉神経・自律神経性頭痛の診断と治療	Brain Medical	17(1)	7-12	2005	127
3	荒木治子, 竹島多賀夫, 福原葉子, 井尻珠美, 古和久典, 中島健二	鳥取大学神経内科頭痛外来におけるトリプタンの検討	日本頭痛学会誌	31	98-100	2004	133
4	Iizuka T, Sakai F, Yamakawa K, Suzuki K, Suzuki N,	Vasogenic leakage and the mechanism of migraine with prolonged aura in Sturge-Weber syndrome	Cephalalgia	24	767-770	2004	
5	池田 憲	頭痛診療最前線－よりよき頭痛診療を目指して－:脳ドックの役割.	カレントセラピー	22(10)	76-79	2004	137
6	Ikeda K, Kashihara H,	Brain check-up-based study of migraine in Japan.	Headache Care	2(2)	75-80	2005	141
7	井尻珠美, 竹島多賀夫, 荒木治子, 房安恵美, 楠見公義, 古和久典, 孫明子, 粟木悦子, 池田憲, 中島健二	慢性頭痛患者におけるHelicobacter pylori感染率およびCagA抗体陽性率の検討	日本頭痛学会誌	31	57-59	2004	147
8	岩田誠	慢性頭痛と治療薬NSAIDsの位置付け	Medical Tribune	37	27	2004	151
9	岩田誠	ヘルスケア相談室 頭痛のタイプを見分けて“ズキズキ”を解消	さわやか	328	6-7	2004	153
10	小田口浩, 若杉安希乃, 花輪壽彦	頭痛診療最前線－よりよき頭痛診療を目指して－:頭痛診療における漢方の役割	カレントセラピー	22(10)	81-84	2004	155



No	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年	一覧表の ページ
11	Kusumi M, Araki H, Ijiri T, Kowa H, Adachi Y, Takeshima T, Sakai F, Nakashima K.	Serotonin 2C receptor gene Cys23Ser polymorphism: a candidate genetic risk factor of migraine with aura in Japanese population.	Acta Neurol Scand	109(6)	407-409	2004	159
12	Kubo Y, Ogawa A et al.	Treatment of vertebral artery aneurysms with posterior inferior cerebellar artery-posterior inferior cerebellar artery anastomosis combined with parent artery occlusion.	Surg Neurol.	61(2)	185-189	2004	163
13	Kubo Y, Ogawa A et al.	Anxiety before and after surgical repair in patients with asymptomatic unruptured intracranial aneurysm.	Surg Neurol.	62(1)	28-31	2004	169
14	河野浩之, 橋本洋一郎, 三隅洋平, 米村公伸, 内野 誠	限局性に硬膜が造影された特発性低髄液圧症候群	神経内科	61(2)	206-207	2004	173
15	近藤裕美, 西村芳子, 田中俊久, 岩田 誠, 佐中 孜	大腸癌を伴う慢性肥厚性硬膜炎を呈した血液透析患者の1例	透析会誌	38(1)	57-60	2005	175
16	Kowa H, Fusayasu E, Ijiri T, Ishizaki K, Yasui K, Nakaso K, Kusumi M, Takeshima T, Nakashima K.	Association of the insertion/deletion polymorphism of the angiotensin I-converting enzyme gene in patients of migraine with aura.	Neurosci Lett	374(2)	129-131	2005	179
17	古和久典, 竹島多賀夫, 中島健二	フローチャートでみる生活習慣病診療指針: 片頭痛と緊張型頭痛	成人病と生活習慣病	34(3)	386-389	2004	183
18	古和久典, 房安恵美, 荒木治子, 井尻珠美, 竹島多賀夫, 中島健二	頭痛患者におけるプロスタサイクリン合成酵素遺伝子多型の検討	日本頭痛学会誌	31	36-37	2004	187
19	古和久典, 竹島多賀夫, 中島健二	臨床医のための新薬の知識2004- 片頭痛治療薬 5-HT1B/1D受容体作動薬 安息香酸リザトリプタン	臨床と薬物治療	23(4)	335-336	2004	189
20	古和久典, 竹島多賀夫, 中島健二	疾患別診療ガイド: 頭痛	Medical Practice	21	311-320	2004	191





No	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年	一覧表の ページ
21	F.Sakai, H.-C.Diener, R.Ryan, P.Poole	Eletriptan for the acute treatment of migraine:results of bridging a Japanese study to Western clinical trials	Current Medical Research and Opinion	20(3)	269-277	2004	201
22	坂井文彦	頭痛診療最前線一よりよき頭痛診療を目指して一:頭痛に関する国際的動向	カレントセラピー	22(10)	85	2004	211
23	坂井文彦, Cady R, Purdy RA, 福内靖男, 岩田誠, 五十嵐久佳, 竹島多賀夫, 中島健二	ブライマケアにおける片頭痛の見分け方(座談会)	Parma Media	22(1)	75-85	2004	213
24	坂井文彦, 福内靖男, 岩田誠, 濱田潤一, 五十嵐久佳, 清水俊彦, 遠山和朗, 影山聡, 荒川一郎, 井尻章悟, 植地泰之, 永田博	日本語版Headache Impact Test(HIT-6)の信頼性の検討	臨床医薬	20(10)	1045-1054	2004	225
25	坂井文彦, 福内靖男, 岩田誠, 西村周三, 濱田潤一, 鈴木則宏, 五十嵐久佳, 清水俊彦, 橋本しおり, 望月温子	日本語版片頭痛用 quality of life調査書の信頼性と妥当性の検討	神経治療	21(4)	449-458	2004	235
26	坂井文彦, 岩田誠, 福内靖男, 陶山和明, 元山英勝, 井尻章悟, 植地泰之, 永田博	片頭痛患者におけるイミグラン錠(コハク酸スマトリプタン)の健康関連QOL改善の検討(市販後臨床試験)	臨床医薬	21(1)	97-117	2005	245
27	Sakuma K, Takeshima T, Ishizaki K, and Nakashima K.	Somatosensory evoked high-frequency oscillations in migraine patients.	Clin Neurophysiol	115	1857 - 1862	2004	267
28	Sasaki S, Shirata A, Yamane K, Iwata M	Parkin-positive autosomal recessive juvenile parkinsonism with $\alpha$ -synuclein-positive inclusions	Neurology	63	678-682	2004	273
29	Sasaki S, Warita H, abe K, Iwata M	Slow component of axonal transport is impaired in the prozimal axon of transgenic mice with a G93A mutant SOD1 gene	Acta Neuropathol	107	452-460	2004	277
30	柴田興一, 山根清美, 岩田誠	片頭痛の視覚誘発電位の空間周波数とコントラストの変化による特徴	日本頭痛学会誌	31	29-31	2004	



No	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年	一覧表の ページ
31	Shimizu T, Iwata M	Migraine patients prefer zolmitriptan orally disintegrating tablets (DOT) to eletriptan oral tablets.	Headache Care	1	299-301	2004	285
32	清水俊彦, 岩田誠, 橋本しをり, 望月温子, 坂井文彦, 福内靖男, 西村周二, 鈴木則宏, 五十嵐久佳, 濱田潤一	片頭痛患者に対する医療経済的調査(中間報告)	日本頭痛学会誌	31(2)	81-83	2004	
33	清水俊彦	頭痛診療最前線一よりき頭痛診療を目指して一:頭痛の医療経済	カレントセラピー	22(10)	86-87	2004	289
34	清水俊彦	女性の痛み一外来患者を中心に一:外来で診る女性特有の痛みと薬物療法:「頭が痛い」と訴える患者	薬局	55(6)	1961-1970	2004	291
35	清水俊彦	臨床医のための新薬の知識2004:片頭痛治療薬の変遷と今後の動向一トリアタン製剤を中心に	臨床と薬物治療	23(4)	326-330	2004	301
36	Yasushi Takase, Misa Nakano, Chikao Tatsumi and Tatsuo Matsuyama	Clinical features, effectiveness of drug-based treatment, and prognosis of new daily-persistent headache (NDPH): thirty cases in Japan	Cephalalgia	24	955-959	2004	307
37	高瀬靖	頭痛診療最前線一よりき頭痛診療を目指して一:慢性連日性頭痛の現状と治療	カレントセラピー	22(10)	1023-1026	2004	313
38	高瀬靖	慢性連日性頭痛/薬剤誘発性頭痛:頭痛の履歴、薬剤との関連が治療選択の分水嶺	メディカル朝日	9	74-75	2004	317
39	高瀬靖	プライマリケア医のための頭痛診療:薬物性頭痛	治療	86(4)	1503-1508	2004	319
40	高瀬靖	難治性頭痛の病態, 予防, 治療:薬剤誘発性頭痛および慢性連日性頭痛	臨床神経学	44(11)	815-817	2004	325
41	高瀬靖, 中野美佐, 巽千賀夫, 松山辰男	トリプタン系薬剤の乱用がみられた5例の検討	日本頭痛学会誌	31(2)	117-119	2004	329



No	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年	一覧表の ページ
42	竹川英宏, 平田幸一	一般診療のための抗不安薬の選び方と使い方: 各診療科での抗不安薬治療の実際 - 症例提示 - 脳・神経系	Modern Physician	24(6)	1051-1053	2004	333
43	Takeshima T, Ishizaki K, Fukuhara Y, Ijiri T, Kusumi M, Wakutani Y, Mori M, Kawashima M, Kowa H, Adachi Y, Urakami K, Nakashima K	Population-based door-to-door survey of migraine in Japan: the Daisen study.	Headache	44(1)	8-19	2004	337
44	Takeshima T, Nakashima K	Genetics of migraine headache.	JMAJ (Japan Medical Association Journal)	47	140-145	2004	349
45	竹島多賀夫, 荒木治子, 中島健二	慢性疾患の予後決定因子 - インフォームド・コンセントを得るために - : 慢性頭痛の予後決定因子	成人病と生活習慣病	34(6)	892-896	2004	355
46	竹島多賀夫, 福原葉子, 井尻珠美, 中島健二	神経疾患の医療手順: 片頭痛	神経治療学	21(2)	139-153	2004	361
47	竹島多賀夫, 荒木治子, 井尻珠美, 福原葉子, 中島健二	頭痛診療最前線 - よりよき頭痛診療を目指して - : 頭痛医療のためのクリニカル・ウエブスチョン	カレントセラピー	22(10)	17-21	2004	377
48	竹島多賀夫, 中島健二	頭痛診療最前線 - よりよき頭痛診療を目指して - : 片頭痛の分子生物学	カレントセラピー	22(10)	85-86	2004	383
49	竹島多賀夫, 荒木治子, 楠見公義, 福原葉子, 古和久典, 足立芳樹, 中島健二	頭痛をめぐる最近の話題: 片頭痛の分子生物学と遺伝子研究	脳神経	56(8)	645-654	2004	385
50	辰元宗人, 石原哲也, 結城伸泰, 平田幸一	寒冷曝露にて頭痛を繰り返した, 強皮症に伴う脳血管炎	日本頭痛学会誌	31(2)	166-168	2004	395
51	中島健二, 竹島多賀夫, 古和久典	トリプタン系薬物の比較とその分析 メタアナリシス	日本頭痛学会雑誌	31(2)	22-24	2004	399
52	永田栄一郎	頭痛診療最前線 - よりよき頭痛診療を目指して - : 片頭痛の病態と治療方針	カレントセラピー	22(10)	33-39	2004	403



No	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年	一覧表の ページ
53	永田栄一郎, 鈴木則宏	日常診療に用いられる薬剤の上手な使い方と服薬指導:頭痛薬	成人病と生活習慣病	35(2)	187-190	2005	411
54	中村智美, 太田宏平, 丹羽直樹, 竹内恵, 内山真一郎, 岩田誠	眼球挫傷をとまなう頭部外傷後に大脳白質散在性病変が出現した1例	臨床神経	44	108-110	2004	417
55	根来清	プライマリケア医のための頭痛診療:難治性頭痛への対応	治療	86	1579-1584	2004	421
56	根来清	頸椎病変と頸部痛:頸椎症性神経根症によって起こる頸部痛	脊椎脊髄ジャーナル	17(8)	774-777	2004	427
57	端詰勝敬	頭痛診療最前線ーよりよき頭痛診療を目指してー:頭痛に対する心身医療的アプローチ	カレントセラピー	22(10)	87	2004	431
58	橋本洋一郎, 井重博, 田島和周, 内野誠	頭痛診療最前線ーよりよき頭痛診療を目指してー:プライマリ・ケアの頭痛医療と病診連携	カレントセラピー	22(10)	65-71	2004	433
59	橋本洋一郎, 井重博, 内野誠	慢性頭痛の治療と病診連携	治療	86(4)	1608-1616	2004	441
60	濱田潤一	頭痛	Medicina	41(4)	592-596	2004	451
61	濱田潤一	痛みの分子メカニズムと臨床:片頭痛	Molecular Medicine	41(6)	729-735	2004	457
62	濱田潤一	脳血管障害と頭痛	治療	86(4)	1541-1547	2004	465
63	濱田潤一	妊娠・分娩の神経学:妊娠中(時)における片頭痛	神経内科	61(1)	34-39	2004	473
64	濱田潤一, 清水利彦, 福内靖男, 坂井文彦, 岩田誠, 西村周三	日本語版片頭痛用quality of life調査書の言語的妥当性の検討	神経治療	21	443-447	2004	479





No	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年	一覧表の ページ
65	Hirata K	Differential diagnosis of chronic headache	JMJA	47(3)	118-123	2004	485
66	平田幸一, 伊澤直樹, 江幡敦子	頸椎病変と頸部痛-頸椎症によって起こる頸の痛み-:Cervicogenic headacheの概念とメカニズム	脊椎脊髓ジャーナル	17(8)	778-783	2004	491
67	平田幸一, 星山栄成, 鈴木紫布, 小林映仁, 辰元宗人, 穂積昭則	頭痛診療最前線-よりよき頭痛診療を目指して-:緊張型頭痛の診断と治療	カレントセラピー	22(10)	1014-1017	2004	497
68	福原葉子, 竹島多賀夫, 植田圭吾, 名田正子, 佐々木清博, 井尻珠美, 中島健二	病院勤務の看護師, 薬剤師における頭痛関連QOLの検討	日本頭痛学会誌	31(2)	84-86	2004	501
69	原安寛美, 古和久典, 荒木治子, 井尻珠美, 竹島多賀夫, 中島健二	片頭痛患者における血漿 substance P 及び ACE 活性の検討	日本頭痛学会誌	31(2)	41-43	2004	505
70	間中信也	頭痛-問診、診察のポイント-	治療	3月増刊号	653-655	2004	509
71	間中信也	突然の頭痛	治療	3月増刊号	1023-1025	2004	513
72	間中信也	頭痛の治療薬-治療アルゴリズムを考慮した頭痛治療-	治療	86(4)	135-140	2004	517
73	間中信也	片頭痛の治療-トリプタン製剤の比較-:トリプタンの使用経験	脳と神経	56(9)	739-745	2004	523
74	間中信也	難治性頭痛の病態, 予防, 治療:群発頭痛とその近縁疾患;診断と治療	臨床神経	44(11)	812-814	2004	531
75	間中信也	診断基準:新国際頭痛分類(ICHD-II)	Annual Review神経 2005		71-78	2005	535
76	三橋健次郎, 中村智美, 橋本しをり, 内山真一郎, 岩田誠	脳脊髄液蛋白の異常高値が持続した脊髄硬膜外腫瘍	脳と神経	56(9)	805-809	2004	543



# 書籍

平成 16 年度

## 第6章

## 群発頭痛

## 病態生理

## 要旨

群発頭痛において、三叉神経第1枝と蝶形口蓋神経節と上頸交感神経節からの線維が収束する海綿静脈洞付近の内頸動脈周囲に原因があるとの説がある。一方、さまざまな自律神経症状を呈する群発頭痛とその類縁疾患を三叉神経・自律神経性頭痛 (TACs) としてまとめ、その発症機序に関して、三叉神経系と上唾液核からの副交感神経系との関連を重要視する考え方もある。最近、群発頭痛患者において発作時にポジトロン断層撮影 (PET) を行い、後視床下部灰白質の活性化が生じること、および Voxel-based morphometry にて健常者に比して後視床下部灰白質の細胞密度が高いことが示され、視床下部が群発頭痛の起源となっている可能性が示唆された。

## はじめに

群発頭痛は、ある一定の期間 (多くの場合1~2ヵ月間) に、連日しかも夜間、明け方のほぼ一定の時間に起る激しい頭痛で、その起り方は群発性である。群発頭痛の有病率は約 0.07~0.09% とされ、片頭痛の発生率の約 1/25 に相当する<sup>1)</sup>。

群発期は数週~数ヵ月間続き、群発期と群発期を挟む寛解期は通常、数ヵ月~数年間続く。激しい頭痛は1~2時間続きその後自然に軽快するが、主に睡眠中に発症するために、眠ること自体を恐怖に感じている患者も多い。片頭痛が女性に多いのと対照的に群発頭痛は20~30歳代の男性に圧倒的に多いことが特徴である (男:女=5~9:1)<sup>1)</sup>。

## ● キーワード

群発頭痛  
三叉神経  
内頸動脈  
自律神経  
視床下部